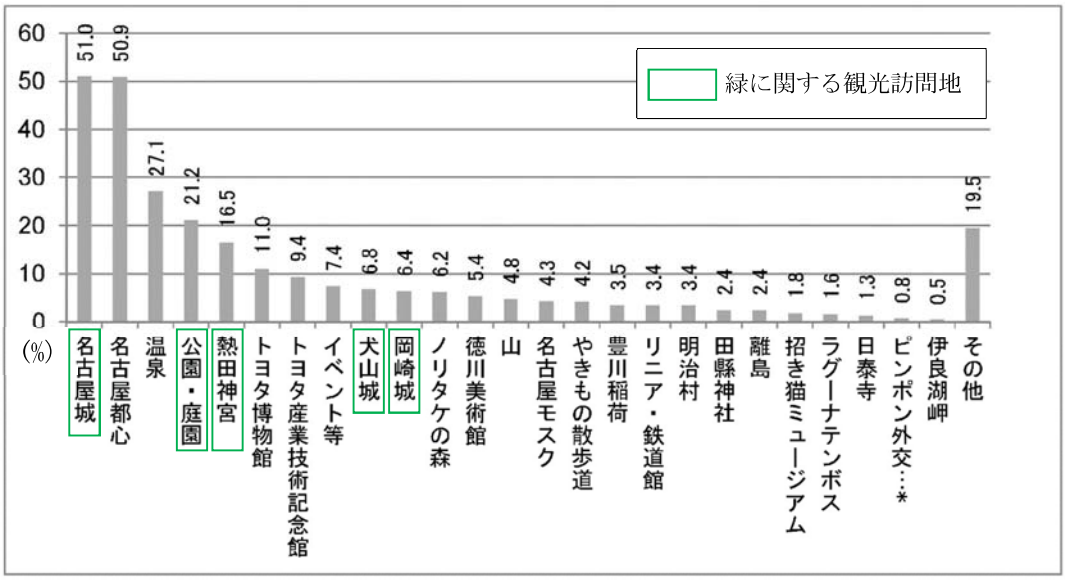
2.2.3　緑豊かな魅力ある都市の活性化などについて

- 都市の緑や空間を地域の個性や資源として価値を高めることが求められています。
- 社寺林など歴史文化との関わりの深い緑は本県の魅力となっています。
- 交流活動の拠点としての公園の活用が求められています。
- 全国有数の農業県として、都市農地の保全・活用が期待されています。

(1) 地域経済・活力を高める資源

都市間競争が激化する中、それぞれの地域が有する資源を活用して、地域活性化を図るため、都市公園や自然環境、緑豊かな美しい町並みなどを生かし、都市の個性を磨いて発信することや広域の連携を図っていくことが求められています。

また、観光入込客統計における本県の外国人観光客は、直近の平成 25 年から平成 27 年にかけて大幅に増加し、平成 27 年時点で 170 万人を上回っています。その中で、本県を訪れた外国人旅行者の県内訪問地は、名古屋城や名古屋都心が最も多くなっていますが、「公園・庭園」の他、「名古屋城」「熱田神宮」「岡崎城」など歴史文化と一体となった緑に関する観光地も上位を占めています。また、「ノリタケの森」は、ミュージアムやショップの他、約 22,000 ㎡の緑地を持ち、都心部の憩いの場の他、イベントの開催など良好な緑のオープンスペースを提供しています。



＊ピンポン外交モニュメント（愛知県体育館）

（愛知県「愛知県訪日外客動向調査（平成 27 年）」）

図43　本県を訪れた外国人旅行者の県内訪問地

出典：あいち観光戦略

本県には、観光レクリエーション資源・施設利用者数第２位（平成 28 年）となっている「刈谷ハイウェイオアシス」と一体的に整備された刈谷市の総合公園である岩ケ池公園があります。また、地域の個性や資源としての緑は、「日本のさくら名所 100 選」（公益財団法人日本さくらの会選定）に選ばれている桜の名所、五条川（岩倉市、江南市、大口町）や岡崎公園（岡崎市）等や、彼岸花の名所となっている矢勝川（半田市）、経済産業省「近代化産業遺産」である愛岐トンネル群と廃線路を囲む豊かな自然（瀬戸市）など様々なものがあります。

※著作権により公表不可のため省略

写真2　左：岩ケ池公園（出典：岩ケ池公園ホームページ）
右：岡崎公園（出典：岡崎市）

(2) 歴史文化に関係する緑の資源や空間

本県ではユネスコ無形文化遺産に５件が登録されているほか、都道府県別では、社寺仏閣は第１位、歴史公園の箇所数は第３位など、歴史文化に関わりのある資源や空間が多い状況です。

一般に社寺林や社叢は、参道や拝所を囲むように配置されており、祭りや伝統行事を執り行う空間の一部を構成しています。これら社寺林や社叢は、古くから絶えることなく受け継がれてきた貴重な存在であり、県民の心と深く結びついた歴史文化と一体となった緑といえます。

その他、桜の名所となっている公園や、歴史公園以外にも、名城公園や豊橋公園、亀城公園などのように史跡や国宝、重要文化財である城郭建築物や城址を含む複数の公園が存在します。

これらの資源や空間を地域の魅力づくりにも繋げるよう、歴史・伝統文化と一体となった緑の保全を図っていくとともに、資源や空間を生かしていくことが求められています。

※著作権により公表不可のため省略

写真3　各市町の歴史文化に関係する緑の資源や空間

(3) 交流活動の拠点としての公園

公園では、多くのイベントが開催され交流の拠点となっています。

愛・地球博記念公園では、平成 25 年 9 月 12 日から 11 月 8 日にかけて、58 日間にわたり「第 32 回全国都市緑化あいちフェア」を開催し、全国から 736,900 人が来場しました。このフェアでは、「緑のある暮らしの明日を愛知から～花を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知フェア～」をテーマに、花と緑に関する多彩な展示や催事が開催されました。

愛・地球博記念公園では、広域公園としてのオープンスペースを活かした規模の大きいフェスティバルや、常設の野外ステージを使った音楽イベント、周回できる園路を使ったマラソンやウォーキング、サイクリングコースでの自転車イベントなど、公園のポテンシャルを活かしたイベントが多数開催されています。

平成 29 年度は、年間 189 件（継続 180 件　新規 9 件）の多様な主体によるイベントが開催されました。全日本うまいもの祭り、モリコロパーク雪まつり、トヨタ博物館クラッシックカー・フェスティバル、東海エコフェスタなど、継続イベントが多く毎年恒例となり、多くの来場者で賑わっています。他の県営公園においても、大高緑地において入場無料の音楽イベント「フリーダム」や、「サムライ・ニンジャフェスティバル」の開催、新城総合公園での「新城ラリー」等、多様なイベントが開催されています。

表16 平成 29 年度　愛・地球博記念公園　持ち込みイベント集計　（参加人数順）

分　類	イベント例	参加人数	日数
まつり・フェスティバル	全日本うまいもの祭り、モリコロパーク雪まつり、トヨタ博物館クラッシックカー・フェスティバル、モリ芸 in 大道芸フェスティバル、モリコロパーク秋まつり	380,712	37
マルシェ・フリマ	東海エコフェスタ、パンマルシェ、	75,100	14
マラソン・ウォーキング	市町村対抗駅伝競走大会、全国スイーツマラソン、マラソンパラダイス、ウォーカソン国際チャリティーフェスティバル	51,315	16
音楽イベント	YON FES、ファミえん、鯱レレ万博～名古屋ウクレレフェスティバル～、アロハピクニック	50,319	11
子育て・子ども・親子	ハハノワ、BIG フェスティバル（私学フェス）、ふわふわピクニック、科学大好きこどもサイエンスラボ、あつまれあいちのじどうかん	42,703	15
各種啓発イベント	愛フェス、介助犬フェスタ、あいち防災フェスタ	23,205	4
サイクリング	モリコロパークサイクルフェスティバル、ヴェロフェスタ 2017,ツールドモリコロパーク	6,440	4
その他スポーツ	ニュースポーツフェスティバル、愛知県勤労者スポーツ大会	16,517	8
乗り物体験	セグウェイ体験	6,956	75
その他	中部 HairFestival、おさんぽ de いきものみっけ	2,255	5
合計			189

注 1）イベントの分類は集計のためにジャンル分けしたもの
注 2）平成 29 年度　指定管理者のモニタリング調査結果をもとに集計

また、市町村の公園においても、久屋大通庭園フラリエ(名古屋市)で平成28年より開催されている「フラリエみらい花フェスタ」、桜城址公園（豊田市）での「TOYOTA STREET&PARK MARKET」や、フローラルガーデンよさみ（刈谷市）での「よさみガーデンマルシェ」といったマルシェの開催など、個性あるイベントが開催され、幅広い世代が訪れ地域の活性化へとつながっている事例もあります。

(4) 都市農地の保全・活用

平成 29 年の都市緑地法の改正において、農地が緑地として位置づけられ、農地の価値が高まっています。また、平成 24 年に農林水産省が実施した「都市農業・都市農地に関するアンケート調査結果」では、都市部の自治体が認識している都市農業・農地の機能と役割として、「新鮮で安全な食料の供給」に加えて、「農業体験・交流の場の提供」「緑地としての景観形成」が上位となっており、都市の活性化のためにも都市農地の保全・活用が求められています。

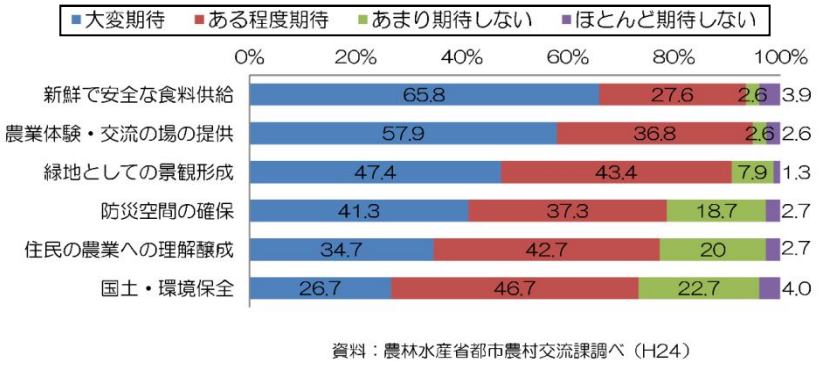


図44　大都市における農業の多様な機能への自治体からの期待

出典:愛知県都市農業振興計画

本県の農業産出額の合計は全国8位となっており、全国有数の農業県です。品目別にみると、農業産出額が昭和 37 年以降、全国シェアが全国 1 位である花きをはじめ、野菜、乳用牛、麦類、豚が全国シェア上位になっており、これらを支える都市農地の活用が考えられます。

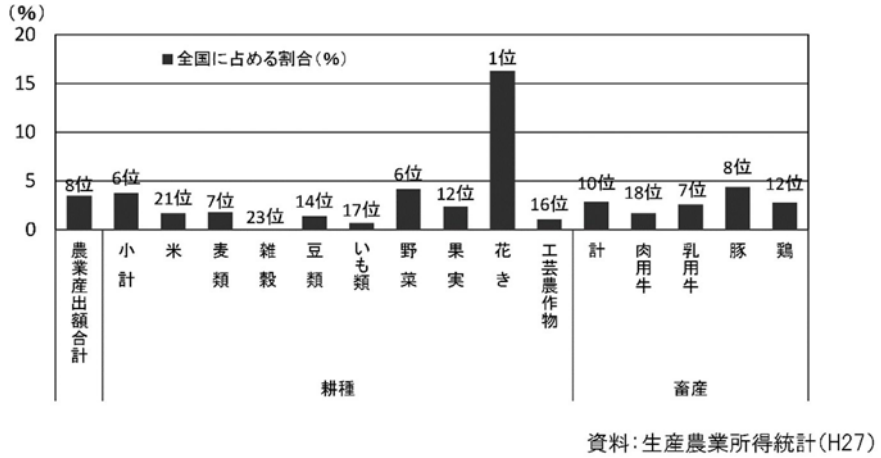


図45　本県の農業産出額が全国に占める割合及び順位（H27）

出典:愛知の都市づくりビジョン

2.2.4　緑と関わる日常生活などについて

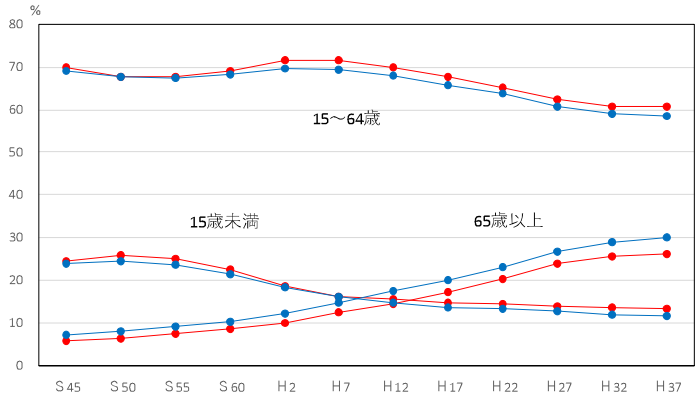
- 人口減少に伴い、緑を通じた美しいまちづくりへの関心が高まっています。
- 価値観が多様化し、QOL（生活の質）の向上の考え方が広がりつつあります。
- 世代間・地域との交流の減少に伴い、地域に対する愛着の希薄化が進んでいます。

(1) 人口減少・少子高齢化の中での緑のまちづくり

本県の人口は、平成 27 年 10 月 1 日現在、7,483,128 人で、当面は増加傾向が続くものの、平成 32 年（2020 年）頃をピークとして減少に転じることが予測されています。

また、少子高齢化については全国的な動向より遅れて進んでいますが、下表に示すとおり平成 27 年の国勢調査で 65 才以上の人口割合が 21%を超え、高齢者の割合が高い「超高齢社会」※を迎えており、さらに平成 37 年には約 26%まで数値が増加すると予測されています。（あいちの人口ビジョン ケース②）

※ 超高齢社会：一般に、高齢者比率が 7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」と呼ばれます。



—：愛知県
—：全国

参考：平成 27 年までは国勢調査の実績値
（平成 32 年以降の愛知県はあいちの人口ビジョンの将来推計値、全国は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口）

図46　年齢 3 区分別人口（割合）の推移

平成 28 年度末現在、本県の都市計画区域は、面積が 354,072ha で県土（約 5,173 k ㎡）の 68.4%を占め、人口は、約 745 万人で県全体（平成 27 年 10 月 1 日現在 7,483,128 人：国勢調査）の 99.6%となっています。

また、市街化区域は、面積が 112,390ha で都市計画区域の 31.7%を占め、人口は、約 621 万人で都市計画区域の 83.5%を占めています。全国の市街化区域の都市計画区域に占める割合は 73.8%であり、全国と比較し、市街化区域内の人口割合が高いことが特徴です。

表17 都市計画区域と市街化区域の面積、人口

	都市計画区域			市街化区域				
	面積(ha)	人口（千人）	人口密度（人/ha）	面積(ha)	人口（千人）	人口密度（人/ha）	都市計画区域に対する割合（%） 面積	人口
愛知県	354,095	7,481.9	21.1	112,416	6,245.7	55.6	31.7	83.5
全国	10,210,130	120,186	11.8	1,449,336	88,667	61.2	14.2	73.8

参考：平成 28 年都市計画現況調査（平成 28 年 3 月 31 日現在）

本格的な人口減少・少子高齢化を迎える社会において、都市の拡大を抑制し、持続可能な都市経営の確保を目指し、医療・福祉、商業といった様々な都市機能の集積した拠点の形成と、過度に自動車に依存しない公共交通主体の交通体系を構築することで、「コンパクト+ネットワーク」の考え方に基づく都市構造の構築が求められています。これまでは、都市化の進展の中で、経済性や効率性、機能性が重視された結果、個性のない画一的な景観が増え、美しいまちづくりへの配慮が十分とは言えない状況でしたが、近年では、急激な都市化の収束に伴い、歴史、文化、風土など地域の特性に根ざした美しい街並みなど良好な景観に対する国民の関心が高まりつつあります。

また、近年頻発する大規模な自然災害を受けて、安全・安心の確保や居住環境の質の向上など、市民のニーズを受けた多様なまちづくりを進める必要があり、日常生活に必要な行政サービス等が住まいの身近に存在する集約型都市構造へと移行する中で、豊かな緑を生かした美しいまちづくりの価値が再認識されてきています。

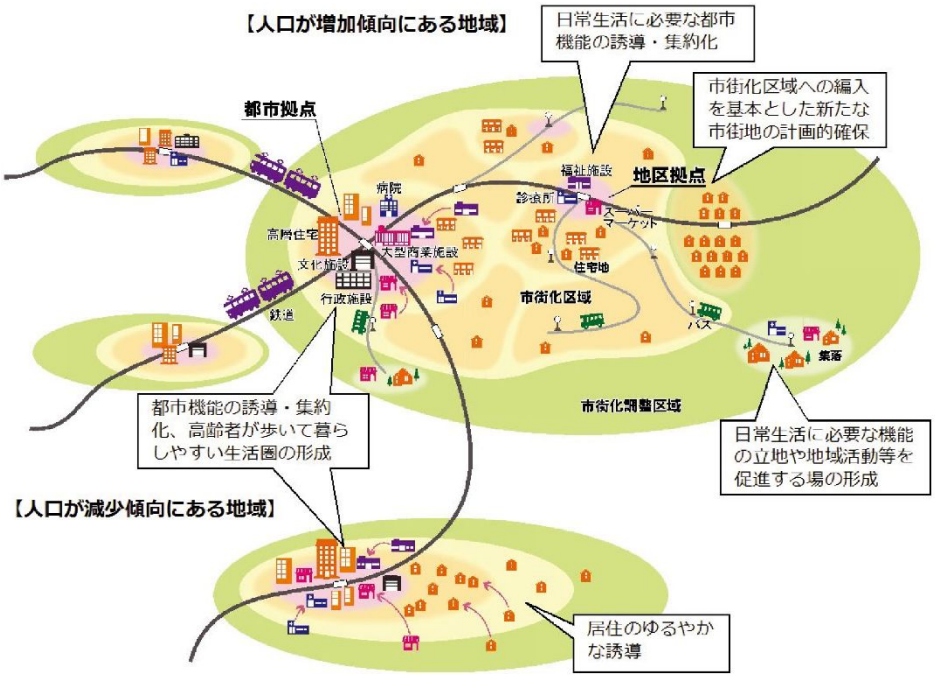


図47　都市ごと特性を踏まえた集約型都市構造のイメージ

出典：愛知の都市づくりビジョン～都市計画の基本的方針～

(2) QOL（生活の質）の向上

平成 28 年度第２回の県政世論調査では、８割を超える県民が、自然を身近に感じながら生活をしていきたいと思っているなど、都市住民の間で自然豊かな地方での生活を望む「田園回帰」の傾向が高まっています。

また、社会の成熟化に伴い、国民の価値観が多様化するにつれて、歴史・伝統、自然、文化等経済的な側面以外の充足を求めるニーズが高まっており、都市も、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや QOL（生活の質）の向上等のニーズへの対応が求められています。

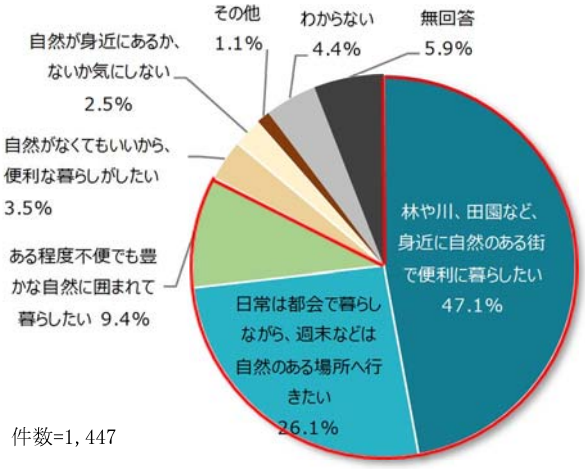


図48　自然との共生に対する考え方について

出典：平成 28 年度第2回県政世論調査

(3) 地域への愛着の希薄化

県政世論調査によると、今住んでいる愛知県に愛着を感じている人は経年的に減少している傾向があり、地域への愛着が希薄化されています。また、都市部、地方部における地域コミュニティは、衰退の傾向にあり、その要因として、都市部、地方部に関係なく、郊外化の進展等に伴い、居住地域と職場・学校等が分離し、主に昼間における地域とのかかわりが少なくなっています。特に都市部では、地方部からの人口の流入が進んだことや、住民の頻繁な流出入により、世代間・地域との交流の機会が減少し、単身世帯やワンルームマンション等が増加して、地縁的なコミュニティ活動を志向しない世帯も増えるなど、地域への愛着・帰属意識が低下しています。

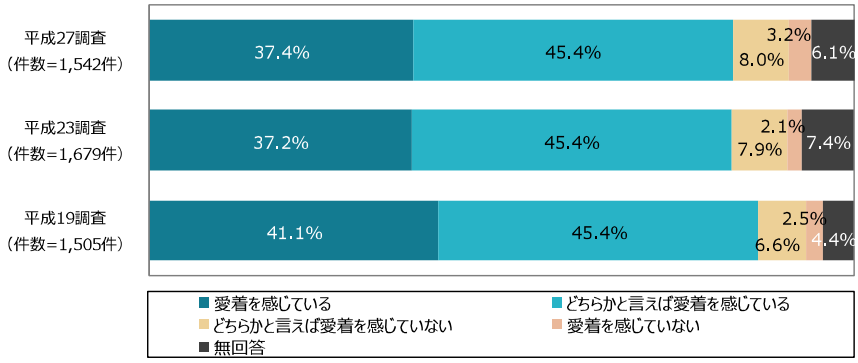


図49　地域への愛着の推移

出典：県政世論調査

2.2.5　都市の緑の有効な利用や運営などについて

- 民間活力導入による公園の利活用の促進、財政支出抑制等の効果が期待されています。
- 多様な主体が協働して緑に関する取組が進められています。
- 都市の緑の利活用促進のため、新たな法制度などの改正が進められています。
- 都市公園、農地、森林など、緑が有する機能やポテンシャルの活用が不足しています。

(1) 民間活力の導入による効果が期待される官民連携制度

都市公園の整備や運営管理に対して民間のノウハウを導入することにより、公園の利活用の促進や賑わいの創出、財政支出の抑制等、さまざまな側面で大きな効果が期待されています。本県の県営公園では、11 箇所のすべての公園に指定管理者制度を導入し、民間の事業者による管理・運営が進められています。

また、県内では、対象公園の状況などを勘案し、民間事業者による公共還元型の収益施設の設置等、民間の創意工夫を取り入れた公園の魅力向上を図るための官民連携制度である「設置管理許可制度」により整備された公園施設の事例も増えています。さらに、都市公園の一部整備までを含んだ「公募設置管理制度」（P-PFI 制度）が、平成 29 年度の都市公園法の改正で導入されたことを受け、県内では名古屋市の久屋大通公園への導入が決定しています。

■ 設置管理許可制度による事例

＜大高緑地　ディノアドベンチャー名古屋＞

場所：大高緑地 （愛知県　広域公園）	
事業者（施設運営者） ：株式会社エヌエーオー	
開園：平成 28 年 7 月 1 日	
概要：公園内の既存樹林地約 2.0ha において、散策路を整備し、動いて吠える実物大模型の恐竜が設置された森の中を、徒歩により探検するアトラクションとなっています。ティラノサウルスを始め、21 種類の恐竜が配置されています。	

＜フォレストアドベンチャー・新城＞

場所：新城総合公園 （愛知県　広域公園）	
事業者（施設運営者） ：エバイス株式会社	
開園：平成 30 年 3 月 16 日	
概要：公園内の既存樹林地約 0.7ha において、木の上に登り、木の間に吊られたロープや木製の足場を伝って空中を進むアトラクションや、10m を超える高さから 100m 以上の距離を滑り降りる「ジップスライド」と呼ばれるアトラクションなどから構成される全長約 700m の体験型森林アクティビティとなっています。	

＜トナリノ＞

場所：名城公園 （名古屋市総合公園）	
事業者（施設運営者） ：アイ・アンド・シー・ コーポレーション株式会社	
開園：平成 29 年 4 月 27 日	
概要：北園内の約 0.7ha の敷地に、「名城コミュニティサポートパーク」をコンセプトとして、カフェやレストランなどの飲食施設、ジョギングやサイクリングを楽しむ人たちのためにシャワー室やロッカー、スポーツ用品店、名古屋城を眺望できるテラスなどが設置されました。	

■ P-PFI による事例

＜久屋大通公園北エリア＞

場所：久屋大通公園 （名古屋市総合公園）	※著作権により公表不可のため省略
事業者（施設運営者） ：三井不動産株式会社	
開園：平成 32 年供用開始予定	
概要：久屋大通公園北エリアに、建築面積約 1700 ㎡、屋外部分約 2000 ㎡を対象に、既存樹木を適性管理しながら飲食・物販等の収益施設を配置し、「都会の安らぎ空間」の創出を目指すものです。	

(2) 多様な主体による協働

■ 県民協働によるパークマネジメントの活動

県営公園のうち、これまでに愛・地球博記念公園、牧野ヶ池緑地、大高緑地、小幡緑地の４公園において協議会を設置し、多様な主体との県民協働により魅力ある公園づくりを目指して、イベント開催や管理運営における課題解決に向けて改善提案・協議実践などの取組が進められています。

表18 県営公園内の多様な主体と協働している会議体一覧

県営公園名	会議体名	設立年月	会員数	年間開催数	活動概要
愛・地球博記念公園	公園マネジメント会議	H21 年 3 月	83	6 回/年	愛知万博記念イベントの実施や会員活動の報告と情報の共有、未活用場所での新規イベント実施など
牧野ヶ池緑地	牧野ヶ池緑地保全協議会	H24 年 4 月	6	12 回/年	自然観察会年 8 回、外来スイレンの伐根調査年 4 回のほか、管理事務所と協働でイベント実施
大高緑地	大高緑地コレカラ談話会	H26 年 4 月	13	4 回/年	公園の魅力マップの作成やイベントの実施、イベントカレンダーの毎月発行など
小幡緑地	小幡緑地魅力向上委員会	H29 年 4 月	20	4 回/年	公園の魅力マップの作成やイベントカレンダーの毎月発行など

注）会員数は、平成 30 年 4 月 1 日現在

■ 公園内でのボランティア活動

県営公園では、様々な事業者や市民活動グループなどが、イベント開催、花づくりや植栽管理、清掃、自然環境保全などのボランティア活動を実施し、公園の運営管理の一部に協力し、魅力向上に貢献しています。

県営公園では、日常的に多くのボランティアの皆さんが、植栽管理、清掃、自然環境保全など活動をされており、平成 28 年度においては、年間 5,788 回のボランティア活動が実施されました。ボランティア活動の内容についても維持管理作業を行うだけではなく、自ら企画を行いマネジメントしながら維持管理をしている団体や、プレイパークなど利用を主とした団体、イベント開催を主とした団体など多様化しています。ボランティア参加者の高年齢化も課題となっていますが、最近では、大学との連携も始まり、大高緑地では定期的に公園のボランティア活動に参加する大学生も増えてきています。

■ 県営公園における他部局との連携

県営公園内では、公園施設の運営について他部局と連携し行っています。他部局が設置管理または管理する施設として愛・地球博記念公園では、もりの学舎（環境部）、児童総合センター（健康福祉部）、備蓄倉庫（防災局）があります。

あいち健康の森公園においては、あいち健康の森薬草園（健康福祉部）が平成 27 年 4 月 28 日に開園しました。

■ 緑のまちづくりへの多様な主体の参加

都市緑化の推進、緑地の保全活動場所は、公園だけではなく、様々な場所で行われています。本県では、都市における緑を守り育てる運動を積極的に推進していくため、都市緑化活動に対する特に著しい功績があった団体に対して愛知県都市緑化功労者として表彰を行っています。

(3) 緑が有する機能やポテンシャルの活用不足

緑には様々な機能やポテンシャルを有しており、存在することで得られる「存在価値」や、利活用することで得られる「利用価値」など、社会的なニーズに対応した機能と役割を担っています。国土交通省では、社会資本である都市公園が有する「ストック効果」について、９つに分類し以下のように整理しています。しかし、適切に管理運営する技術者不足や維持管理費の減少などに伴い、これらの機能やポテンシャルが十分に活用されていない状況にあります。

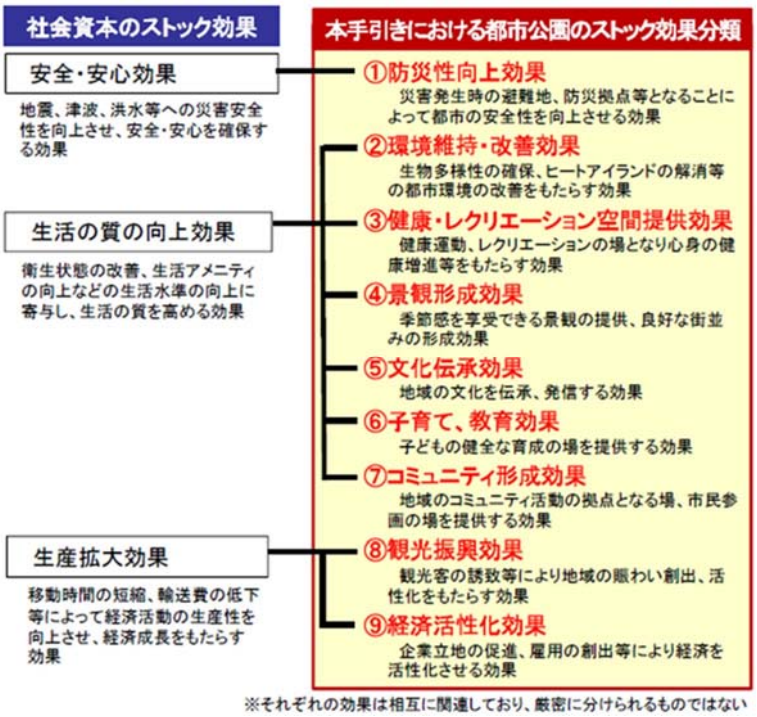


図50　都市公園のストック効果

出典：都市公園のストック効果向上に向けた手引き　国土交通省

社会資本が一定程度確保されたステージにおいては、整備された社会資本が機能することによって得られる「ストック効果」を高めるなど、緑とオープンスペースが、そのポテンシャルを十分に発揮し、社会状況の変化等に柔軟に対応する空間やサービスを提供し続けることが必要となっています。

本県においても、都市公園、農地、森林などの緑の機能やストック効果、存在価値・利用価値などを高めるための取組として、各地域の実情に合わせて、従来の維持管理の延長ではなく、総合的なまちづくりの一環として取り組むことが必要となっています。